

<「知るっば!久留米」 令和2年4月16日(木) 12:30~放送分>

ドイツさんと久留米 ～第3回～ ドイツさんの生活

<ゲスト： 市文化財保護課 主査 小澤太郎さん>

坂本 MC (以下「坂本」)

「知るっば!久留米」ナビゲーターの坂本豊信です。4月は「ドイツさんと久留米」をテーマにお送りしています。

今回も久留米市文化財保護課の小澤さんにお伺いします。テーマは「ドイツさんの生活」です。

ドイツさんが住んでいた収容所は、どんな感じだったんでしょう？

ゲスト:小澤さん (以下「小澤」)

前回もお話ししたんですが、収容所は青島(チンタオ)の戦いで負傷した日本兵の仮病舎だったんですよ。だから、建物も室内のスペースも日本人向けに造られていたんです。もちろんベッドもあったんですけど、ドイツさんはデカイからどうしても狭いんですよ。

坂本 このシリーズの最初の方でお話を伺ったのですが、ドイツさんはビールを飲めたりとか、わりと自由だったんじゃないかというお話もあったんですけど。

たしかに収容所のスペースは狭かったと思うんですけど、その生活の中で楽しみというか、どんな生活をされていたんですか？

そもそも、何人くらいドイツさんはいたんですか？

小澤 久留米の収容所は最大で1319人もいるんで、国内でも最大規模なんですよ。でも、面積が一番広かった坂東収容所と比べると1人あたりの面積は1/4程度なんですよ。だから、久留米の収容所は極端に狭かったんですよ。

そんなドイツ人捕虜たちのストレス解消は、まず体を動かすことだったみたいです。だから、収容所内をひたすら散歩していたみたいで、その写真も残っています。

坂本 散歩ですか？それってただ歩くだけだったんですか？

小澤 そうですね。でも、それが大事みたいです。歩くことが生きることっていうかね。ドイツさんは、日常的に体を動かす事を生活に取り込んでいたようですね。

坂本 残っているドイツさんの生活の写真を見ると、これはスポーツですよね？

小澤 そうです。日本人がヨーロッパの近代スポーツを初めて見たのが、やっぱりドイツ人捕虜のスポーツ

です。このスポーツはサッカーですね。それにテニスやレスリング、ボクシングとかですね。

坂本 その収容所の中でドイツさんがお互いに試合をしていたんですか？

小澤 そうですね。よく体を動かしてストレス解消というのがあったんですね。だから、収容所の中にスポーツチームがたくさんあったみたいですね。色々な種目の試合をやって盛り上がっていたみたいですね。

坂本 それはいいですね。

小澤 だから、日本人の子供達もそれを楽しみにしてたみたいですね。

坂本 日本人もドイツさんのスポーツを見れたんですか？

小澤 収容所の中に入っては見れなかったでしょうけど、外からよく見ていたって子はいらんですね。収容所内で競技をしているとボールが外に飛び越えてくこともあるんで、子供達は喜んでそれを拾いに行くんですよ。そうすると、ドイツさんが出てきて、ボールの代わりにお金（チップ）をくれるんだそうです。それが楽しみだったって子もいるんですよ。

坂本 この写真は海で男が女装してるみたいな、これは何の写真ですか？

小澤 これは演劇、お芝居なんですよ。当然、男性しかいない収容所なわけで、そこでお芝居ってなるとやはり女役も男性がやるしかないんですね。

坂本 歌舞伎みたいですね。

小澤 歌舞伎で女形ってあるじゃないですか。あれと一緒に、女役をやるのはだいたい決まった人らしいんですよ。小柄でシュッとしているような方がね。
お芝居の内容なんですけど、ほぼほぼ喜劇、つまりコメディですね。収容所内で捕虜の人たちが観劇するんですけど、やっぱり楽しめる演目を選んだみたいですね。

坂本 お笑いはやっぱり元気になるんですかね？

小澤 やっぱりそうでしょうね。少しでもみんなの気持ちを和らげたいってところだったと思います。収容所内に劇団があって、そこで大道具から小道具から衣装から全部を自前で作るんですよ。
ドイツさんが帰国する前、恵比寿座っていう1300人ぐらい収容できる大きな劇場があって、そこで久留米の人たちも何回かドイツさんの演劇を見てるんです。

坂本 ドイツさんがやってくれた喜劇を久留米の皆さんもそこで見てるんですね？

小澤 そうなんです。ただ、全てドイツ語だったので、なんかよくわからないって書き残している人もいましたけど。

坂本 でも、何となく楽しそうだなってのは伝わってくるんじゃないですかね？

小澤 そこは伝わりますよね。

坂本 ドイツさんは色々と工夫をしながら、毎日、楽しい日々を送ってたみたいなのかな？

小澤 そこは捕虜だから。
ただ、ずっと横になっていたわけではなくて、研鑽してるというか、何か活動してるんですよね。
そういうところは見習うべきだと日本の情報当局もレポートを出してるんですね。

坂本 なんか遠足に行ってるような写真もあるんだけど、それアリなんですかね？
なんか映画みたいな大脱走とかが起きたりしなかったんですか？

小澤 それなんです。他所の収容所では脱走の話もあったみたいですが、久留米では特になかったみたいです。遠足の途中、日本人と一緒に写真を撮ったりとか、ビール持って行ってラッパ飲みしてみたりとか。

坂本 そこはやっぱりビールを飲むんですね？

小澤 お供はやっぱりビールですね。筑後とか佐賀のあたりまで出かけて行って、よく体を動かしていたみたいです。

坂本 やっぱり、ストレスをいかに解消するかだったんでしょうね？

小澤 そういう活動をしっかりしていくと、収容所内でのイザコザとかがだんだん減っていくんですね。

坂本 久留米の人達にとっても、スポーツに触れたり、ドイツさんと触れ合ったりしたのは非常によかったでしょうね？

小澤 そうですね。また、食事もそうですね。久留米の業者さんがドイツさんに納入するためにハムを製造するようになったりとかですね。そこから久留米のソーセージとかハムを作る文化ができたとか。

坂本 ドイツさんに美味しく食べてもらおうということで、そういう研究をして作る。
久留米の人もやるなって感じですね。
今回もお話は尽きませんが、シリーズは佳境に入っていきます。
今日ご紹介した情報は、久留米市の公式ホームページ内のドイツさんと久留米でもご覧いただけ

ます。

また、久留米市では、ドイツさんの足跡が残るアサヒシューズ、ブリヂストン、ムーンスターのゴム 3 社と共同でドイツさんの功績を見学者の皆さんなどに発信しています。

次回は『ドイツさんと音楽』をテーマにお届けします。お楽しみに。